

【開会 午後4時00分】

- 1 開 会
- 2 出席委員の報告
- 3 競輪事業部長挨拶

○伊与部部長 皆様、こんにちは。

函館市競輪事業部長の伊与部でございます。

函館市競輪運営協議会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、時節柄大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、市営函館競輪の運営にご理解とご協力をいただきまして、心より感謝を申し上げます。

さて、令和3年度の市営函館競輪は引き続き新型コロナウイルスの感染が全国的に広がりを見せる中での開催となりました。

開催にあたりましては業界のガイドライン、対策要綱の内容を踏まえまして、市が独自に定めた対策要領により新型コロナウイルスの感染対策を万全に講じ、競技内容についても昨年に引き続き7車立て9レースに変更することで、参加選手の削減も行い、開催関係者の協力のもと実施いたしました。このような状況で、昨年10月26日をもちまして、計20開催61日をレースカット等の大きなトラブルもなく、無事全ての開催を終了することができました。

特に令和3年度は5月に開催しましたGⅢグレードの記念競輪だけではなく、8月には6年ぶりとなる、GⅡグレードの特別競輪、サマーナイトフェスティバルも開催しまして、コロナ禍ではございましたが、イベント等の縮小、入場制限を設ける等のコロナ対策を万全に実施しながらお客様にご来場いただきました。さらにはバンク内のLEDによる

「光の演出」等により、函館競輪に来場できない全国の競輪ファンの皆様に対しましてもインターネットを通じて函館競輪の魅力を発信するこ

とができたと確信しております。

売上につきましても、前回の運営協議会でもご報告させていただきましたが、電話・インターネット売上が想定以上に増加したことに伴い、昨年9月8日付で弾力条項を適用いたしまして、売上予算を当初予算の222億円から45億円増の267億円に変更しております。全開催終了後の売上につきましても既に委員の皆様には書面にてご報告させていただいておりますけれども、弾力条項適用後の予算をさらに1億円程度上回り、約268億円と、函館競輪開催史上4番目の売上を上げることができたところでございます。

また、今年度から新たな包括受託者となったトータリゼータエンジニアリング株式会社についても、スタート時点からコロナ禍という大変な環境でございましたが、本市と協力・連携を取りながら業務を遂行することでお客様や開催関係者にとって安全安心な開催実施に努めるとともに、全国に対して函館競輪のPRや実効性のある業務を遂行していただけたと実感しているところでございます。受託者からは現在も函館競輪の売上増や魅力発信等につきましても様々なご提案を受けているところでございますし、来年度の内容についても、コロナ禍においても実施可能な施策については随時実施を進めるよう引き続き協議し、必要に応じて市長とも協議しながら更なるファンサービス、売上の向上に努めてまいりたいと思っております。

令和4年度の市営函館競輪においては、5月14日から17日の4日間にGⅢグレードの函館競輪開設72周年記念競輪五稜郭杯争奪戦を開催するほか、8月4日から7日には、令和2年度に引き続きまして2度目となる、GⅢナイターHAKODATEミリオンナイトカップを開催する予定でございます。こうした話題性の高いレースを活かしながら、全国のファンの皆様には北海道で唯一の競輪場である函館競輪場の魅力をより一層発信していけるよう、今後とも努力してまいるとともに、令和5年度以降の大きなレースの獲得に向け、現在も積極的に中央団体・関係団

体に働きかけているところでございます。

現在も国内においては、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んできているものの、オミクロン株の出現により、全国的に感染が広がりを見せており、ここ函館においても決して予断を許せない状況でございます。また、競輪業界においても年明け以降、新型コロナウイルスの影響で選手や関係者に陽性者が判明し、各場で中止が相次いでいる等、まだまだ先が不透明なところですが、このような状況ではございますが、我々も一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願いますとともに、引き続き万全な感染防止対策を実施の上、安全安心な開催に向けて令和4年度も函館競輪の素晴らしい1年となるよう、関係者が一丸となって邁進してまいりますので皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。私からのご挨拶に代えさせていただきます。本日は限られた時間ではございますが、よろしくお願い申し上げます。

4 議題

(1) 報告事項

① 令和3年度自転車競走事業特別会計補正予算(案)について

(資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき小林事業課長から説明)

○今井会長 資料等について、なにか質問等あるか。

○齊藤委員 インターネット投票が伸びているということだが、大体どのくらいの年代層の方がインターネット投票をやっているのかわかるのか。

○小林課長 インターネット投票の年代層の属性についてであるが、投票が伸びているものの、増加してからの状況としては、運営会社からまだ投票者の年齢構成等の情報提供を受けておらず、現在のところ細かいところまで把握はできていない。

○齊藤委員 了解した。

○今井会長 他に質問はないか。

(各委員：特になし)

②令和4年度自転車競走事業特別会計予算(案)について

(資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき小林事業課長から説明)

○今井会長 入場料収入についてだが、ミッドナイトや記念競輪のナイター開催への移行によって以前よりも見込めなくなってきているということか。また、記念競輪を日中開催、ナイター開催で行うというのはどのように決まるのか。

○小林課長 入場料収入は、無観客のミッドナイト競輪の開催日数が増えていることや、ナイター競輪のこれまでの実績などを勘案して計上し、結果減額となったものである。また、記念競輪についてであるが、記念競輪は全ての競輪場が年に一度開催することができるGⅢグレードの開催であり、ナイターで開催することも可能である。ナイターでの開催を希望する施行者は中央団体の募集に応募し、令和4年度は3競輪場が選定されている。選定された競輪場は同年度にもう1開催GⅢナイターを開催することができるため、函館競輪場においては令和4年度に5月の函館記念競輪をナイターで開催するとともに、8月にGⅢナイターをもう1開催行うことが決定したものである。

○今井会長 もう一点だが、基金積立金は経年劣化による大規模改修に備えるものであるが、この額は施設改修にかかるトータルの額を目標として積み立てているのか、あるいは、売上規模等を見ながら毎年計画的に支出を見込み、そこから必要額としての積立額を積算しているのか。

○伊与部部長 私の方からお答えする。施設改修については、ご指摘のとおりで、長期的に財政収支試算で計画を立てている。その中で、LED照明等の改修など、大規模なものについては大きな予算が必要になることから、それらを行うために基金の積立が不可欠である。特に大規模改修になると数億円、ものによっては数十億円が必要となり、今の基金残高は令和3年度末で約13億円と、かなり積み立ててはきているものの、今後の計画をすべて賄えるかというところがある。

そのような状況を踏まえ、単年度でできる改修や長いスパンでの大規模改修等の計画を立て、計画的に積立や執行を行っていく。また、そのときの施設の劣化状況によってもかかる費用は変わってくるので、これらの状況を勘案しながら、随時計画を見直し、進めていきたいと考えている。

○穴田委員 自転車競走事業費の競輪振興法人交付金についてだが、これはJKAに払っているのはわかるが、競技会に対しての委託料はこの1号から3号までの交付金に含まれているのか、内訳を知りたい。

○伊与部部長 JKAは、競技実施法人（旧競技会）と振興法人（旧振興会）からなるが、交付金は法に基づき自治体が振興法人に交付するもので1号から3号までである。この金額は開催における売上に応じて金額が変わるものであり、例えば令和3年度の内訳であれば、1号交付金は2億6,353万1,464円、2号交付金が2億1,431万1,276円、3号交付金が7,492万2,077円となる見込みである。計算方式はかなり複雑なものなので、ここでの説明は割愛するが、交付金はJKAとなる前から支払っている。

○穴田委員 交付金の中に以前の競技会の委託料は含まれているのか。

○伊与部部長 含まれていない。

○穴田委員 では JKA ができる以前に支払っていた競技会に対する委託料はどうなっているのか。1号から3号の中に含まれているのではないのか。それとも別に支出しているのか。

○伊与部部長 競技会は振興会と合併し、JKA という1つの組織にまとめ、今は1つの組織として事務を執行している。旧競技会への委託料についても、交付金とは別に計算し JKA に支払っている。

○木田委員 インターネットでの売上が非常に上がっているということだが、近年の状況を見ていると、おそらくはコロナの感染が広がってしまって、多くの方の時間の使い方が変わってきたことが結びついていると感じる。インターネット投票者の増加により、収益が安定し、一般会計へ繰出金を順当に出せるようになったのではないか。このように、時間の使い方の変化をうまく捉えたことで得られた、コロナ禍での売上の増分から得られた収益を、函館市のコロナ対応に係る支出に結びつけ、活用を図るのもいいのではないかと思う。新しいファンの競輪への興味をうまく捉えたことで、史上4番目の売上を上げたのであれば、その活用によって競輪に向かっていくお客も増えた年なんだということが記憶に残るような活用の方法もあるのではないか。

○伊与部部長 貴重なご意見ありがとうございます。今お話しいただいたとおり、コロナ禍によって競輪に限らず公営競技全体が伸びている状況である。コロナによって自宅で過ごす時間が増えたから伸びたというのも単純にあると思うし、インターネットが手軽になった、そういう時代背景もあると思う。

なおかつ、夜中に行うミッドナイトや朝早くから行うモーニングなど、開催形態が多様化している。このような中、新たなファンを獲得していくため、時代の流れを先取りしていかなければならない一方、競輪場に実際

に来ていただきレースを観戦することで、強烈なインパクト、競輪の魅力
を伝えることができる本場も大切にしていかなければならない。いかにそ
の2つを両立させるかだと思う。

他の公営競技の売上状況と比較してみると、競輪は昨年対比で1月から
12月では135パーセントで、12月末時点で9,000億を超えたところであ
る。一方ポートレースの方はもう2兆円規模にまで膨らんでいる。
オートレースは競輪より少し下になる。公営競技の中でトップの売上は
J R Aだが、地方競馬も今9,000億くらいで大体競輪業界と同程度の売上
になっている。

収益の活用については、今お話しがあったことも踏まえながら、収益が
増加した際には、一層市財政への貢献を行っていきたいと考えている。

○今井会長 他に質問はないか。

(各委員：特になし)

③令和4年度函館競輪上期開催日程(案)について

(資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき小林事業課長から説明)

○布谷委員 前から気になっていたのだが、4月の「ノー競輪デー」という
表現は全国的なものなのか。

○小林課長 競輪のシステム入れ替えを行う日であり、全国的に「ノー競輪
デー」という表現になっている。

○布谷委員 「ノー」という言葉が、競輪が否定されているように聞こえる
ので、もう少しいい表現があればと思うのだが。

○小林課長 確かにおっしゃる通りなので、今後表現の仕方は考えたい。

○今井会長 その他に，委員，事務局から意見・質問等はあるか。

（各委員：特になし）

○小林事業課長 次回の運営協議会開催日程は，令和4年8月末頃を予定している。日程の詳細が決定後，別途ご案内させていただきたい。

○今井会長 次回は8月下旬ということをお願いします。

= 以上をもって終了 =